

「ごちゃまぜの会」が必要な背景と期待されること

2025年11月29日

(株)日本医療総合研究所 地域づくり推進部員
川越雅弘

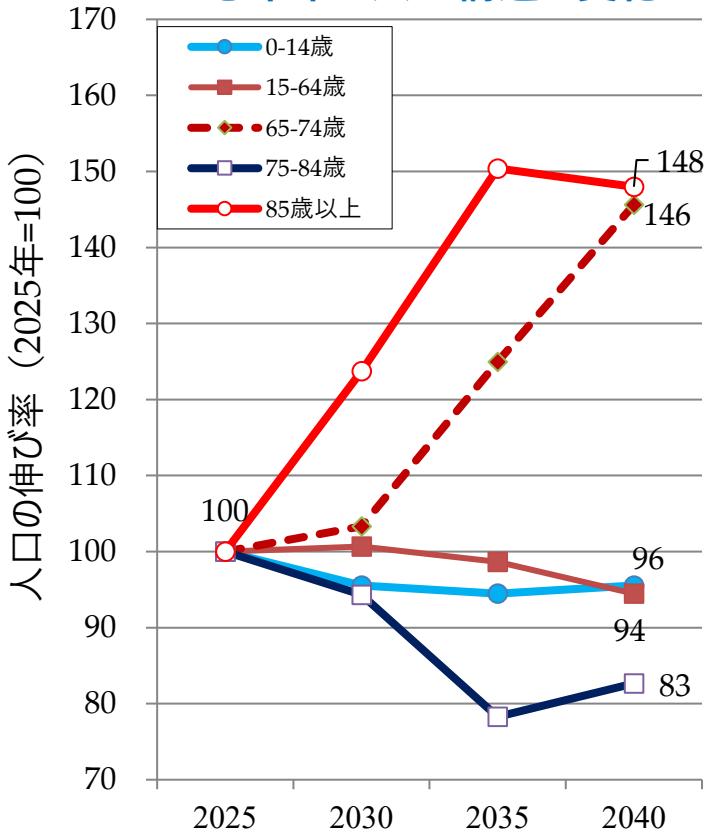
1. 課題や支援ニーズの「複合化」と国の対応の方向性 －全世代を対象とした地域包括ケアシステムの推進－

85歳以上人口の急増と高齢者向け地域包括ケアシステム構築の推進

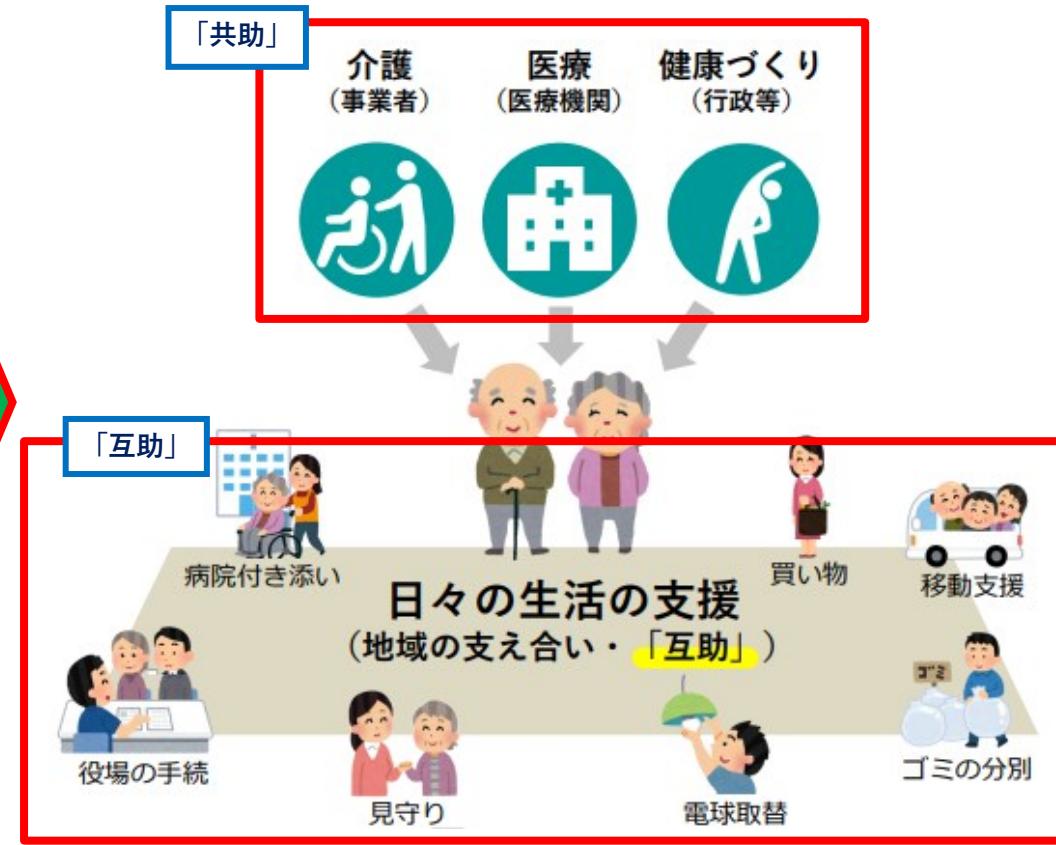
ポイント

- 2040年にかけて、85歳以上人口が急増する。
- 85歳以上高齢者は、医療・介護・生活支援に対するニーズが高い。そこで、これらサービスや支援が包括的に提供される仕組み（＝地域包括ケアシステム）の構築が現在進められている。

志木市の人囗構造の変化



包括的な支援を必要とする85歳以上高齢者

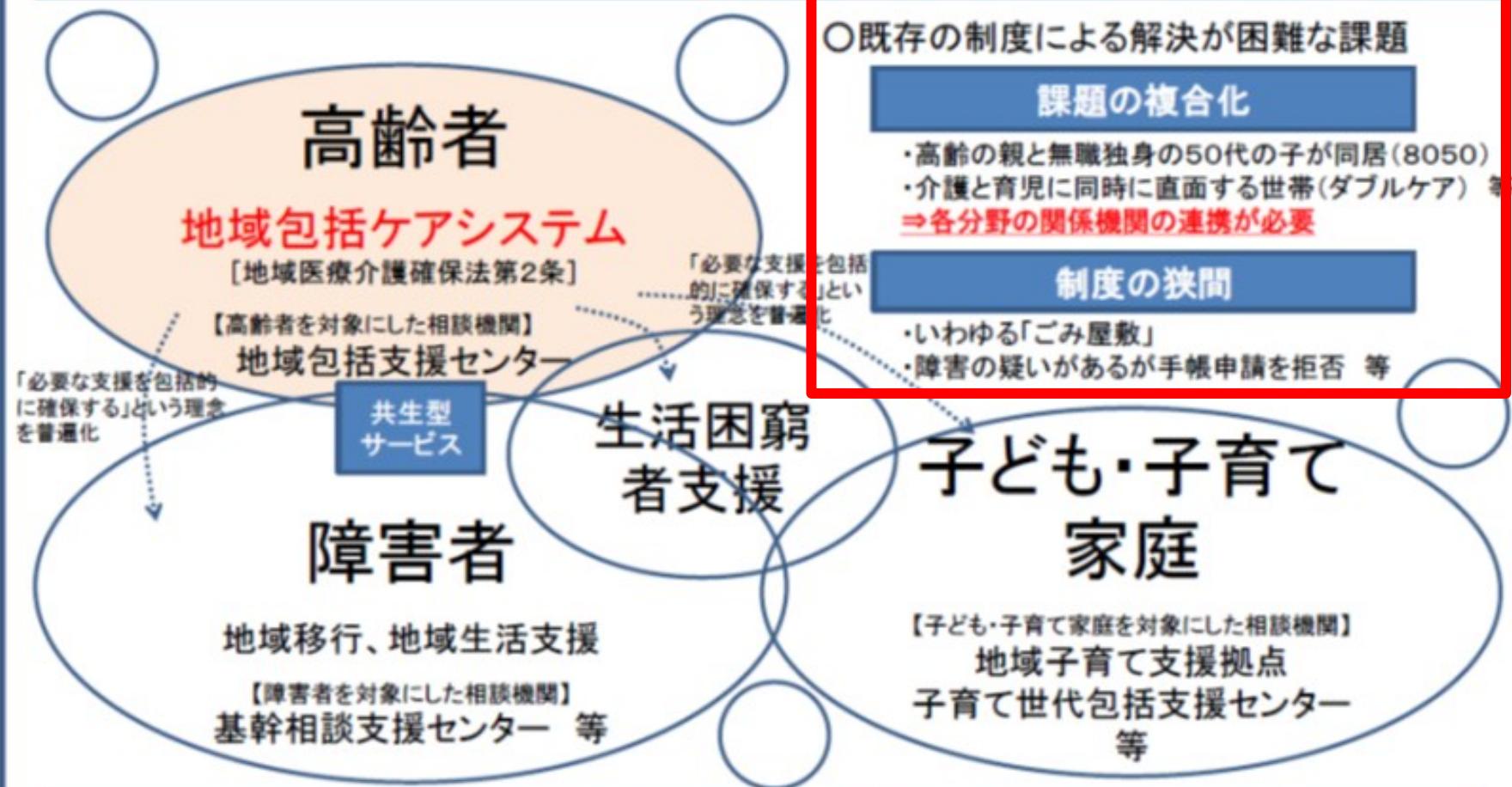


出所) 国立社会保障・人口問題研究所：日本の地域別将来推計人口
(平成30年推計) より自作

出所) 厚生労働省：これからの地域づくり戦略より引用

多様化・複合化する個人・家庭・地域の課題解決に向けて -全世代を対象とした包括的な支援体制の構築の推進-

地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制

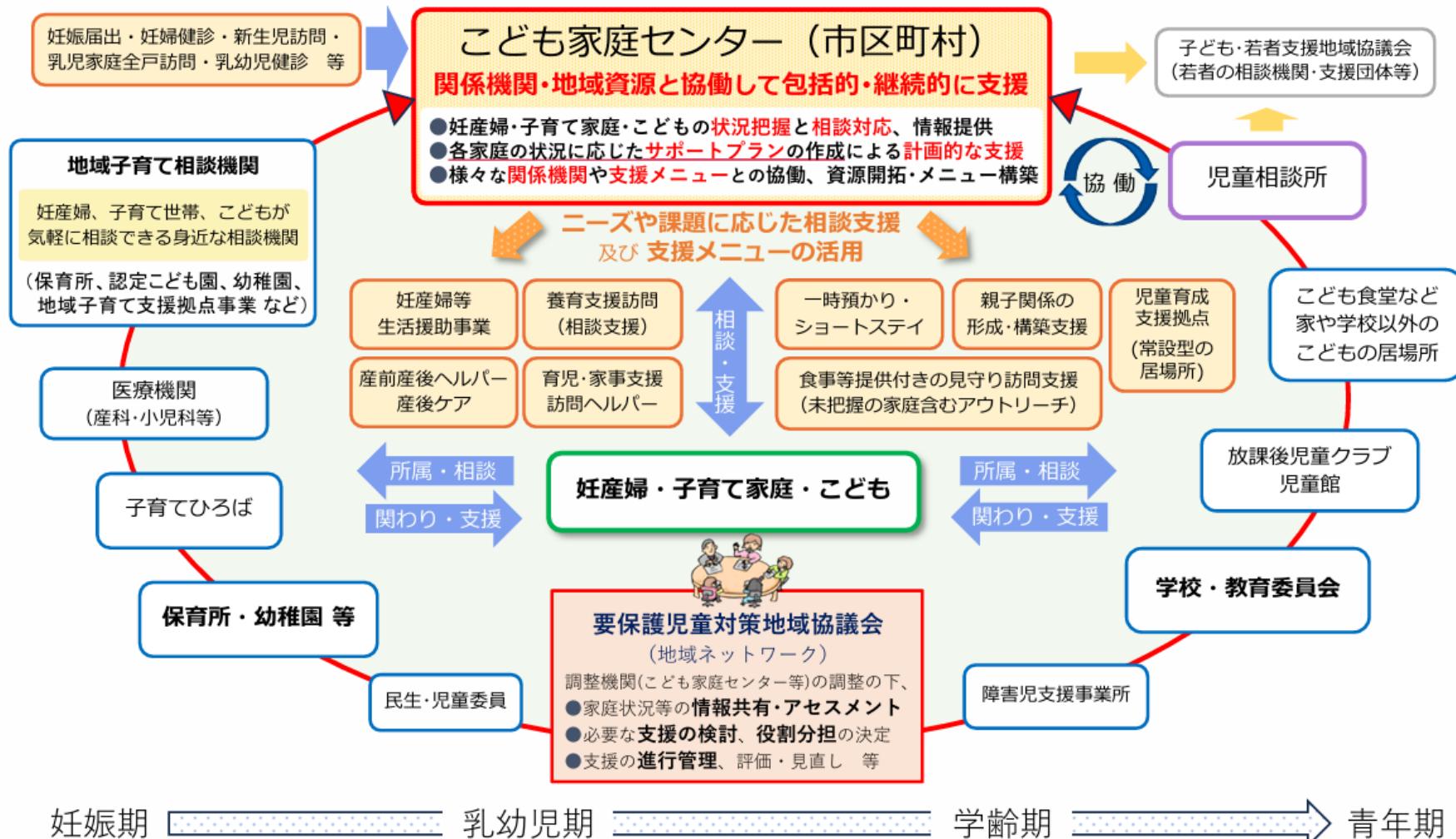


土台としての地域力の強化
「他人事」ではなく「我が事」と考える地域づくり

2. 子ども施策の動きと課題

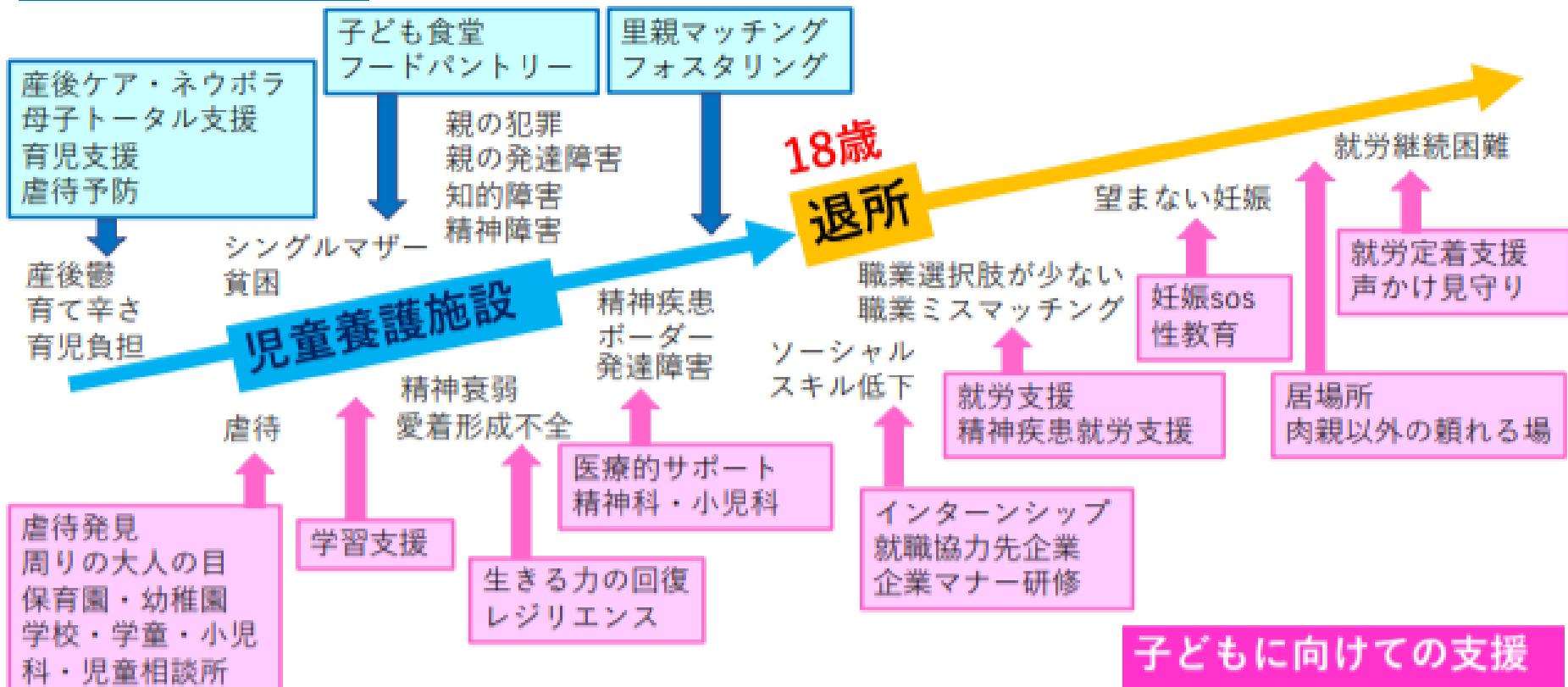
こどもまんなか
こども家庭庁 こども家庭センターを中心とした包括的・継続的な支援

- 市町村において、妊産婦や子育て家庭を早期から支援して虐待の予防を図る（身近な市町村の強み）
- 市町村にこども家庭センターを設置し、妊娠届や各種健診、様々な関係機関との連携などを通じて早い段階で家庭の困難を把握・支援する中核を担い、地域全体で継続的に家庭を支える体制を強化
- 設置率50.3%（R6.5.1）→ 令和8年度までに全市区町村に整備するため開設や運営の経費を補助



現在、多様な支援者が活動されているが、支援している「対象者」も「時期」も異なる。また、各支援者同士も、支援者と地域も十分にはつながっていない。

親に向けての支援



包括的支援を構築するために必要なこと

- 民間企業とのコラボ（食材提供、居場所の提供、移動手段の提供等）
- 住民活動とのコラボ（子どもへの寄り添い、食材提供の準備への支援など）
- 行政・教育・医療等とのコラボ（支援者による授業→支援を必要とする子どもの発見等）

3. 本会に求められること

個人・家庭・地域が抱える複合課題を解決するために

【必要なこと】

① 支援を要する人のニーズ／支援者活動／地域資源などを「知ること」

- ・ 支援を要する多様な人の「支援ニーズ」や「困りごと」
(高齢者、障害者、生活困窮者、子ども・子育て家庭...)
- ・ 支援者の「活動実態」「困りごと」「やりたいけどできていないこと」
- ・ 支援を要する人に関わっている人が感じている課題 (郵便局、まちの電気屋さん、...)
- ・ 地域資源 (人・モノ・場所・その人の思いなど)

② 多様な関係者が「つながる」こと／「つなげる」こと

- ・ 分野や領域が異なる「支援者」同士
- ・ 「支援者」と「何らかの地域貢献をしたいと思っている人」
- ・ 「支援者」や「地域貢献したいと思っている人」をつなぐ人 (社協など)

③ 解決したいテーマの解決策を「関係者で議論し、実行すること」

例1：子どもを地域でどう支えるか？

例2：障害者の就労をどう支えていくか？